DuMA ニュースレター *2026年７月20日*

ベネズエラに続きメキシコでも大規模地震発生

６月 24 日にベネズエラで M7クラスの地震が続けて発生し、7月18日の段階で死者が 5,000 名を超えたと報道されています。ベネズエラは南アメリカプレートとカリブプレートの境界付近に位置しており、東西に走る巨大な断層帯の影響で、歴史的に何度も大きな地震に見舞われています。特に 1812 年のカラカス地震が最も有名で、カラカスをはじめ多くの町が壊滅的な被害を受けました。この地震では最大で 2 万人以上が死亡したとされており、さらにこの時期はベネズエラ独立戦争の最中であったため、この大震災が政治的・軍事的な情勢にも大きな影響を与えたようです。

7月18日、メキシコ南部で M7.3 の地震が発生しました。この地震で、メキシコだけでなくグアテマラやエルサルバドルでも強い揺れが観測され、一時津波警報も発令されました。メキシコの地震調査機関によると、強い余震がすでに 30 回以上発生しているとの事です。



メキシコと日本はいずれも世界有数の地震国ですが、地震活動の特徴には違いがあります。日本列島周辺では、太平洋プレートやフィリピン海プレートなど複数のプレートが沈み込み、海溝型巨大地震、内陸活断層地震、深発地震などが全国的に発生します。一方、メキシコでは、太平洋岸でココスプレートが北米プレートの下に沈み込むことによる巨大地震が中心で、特に南西部沿岸の地震活動が活発です。

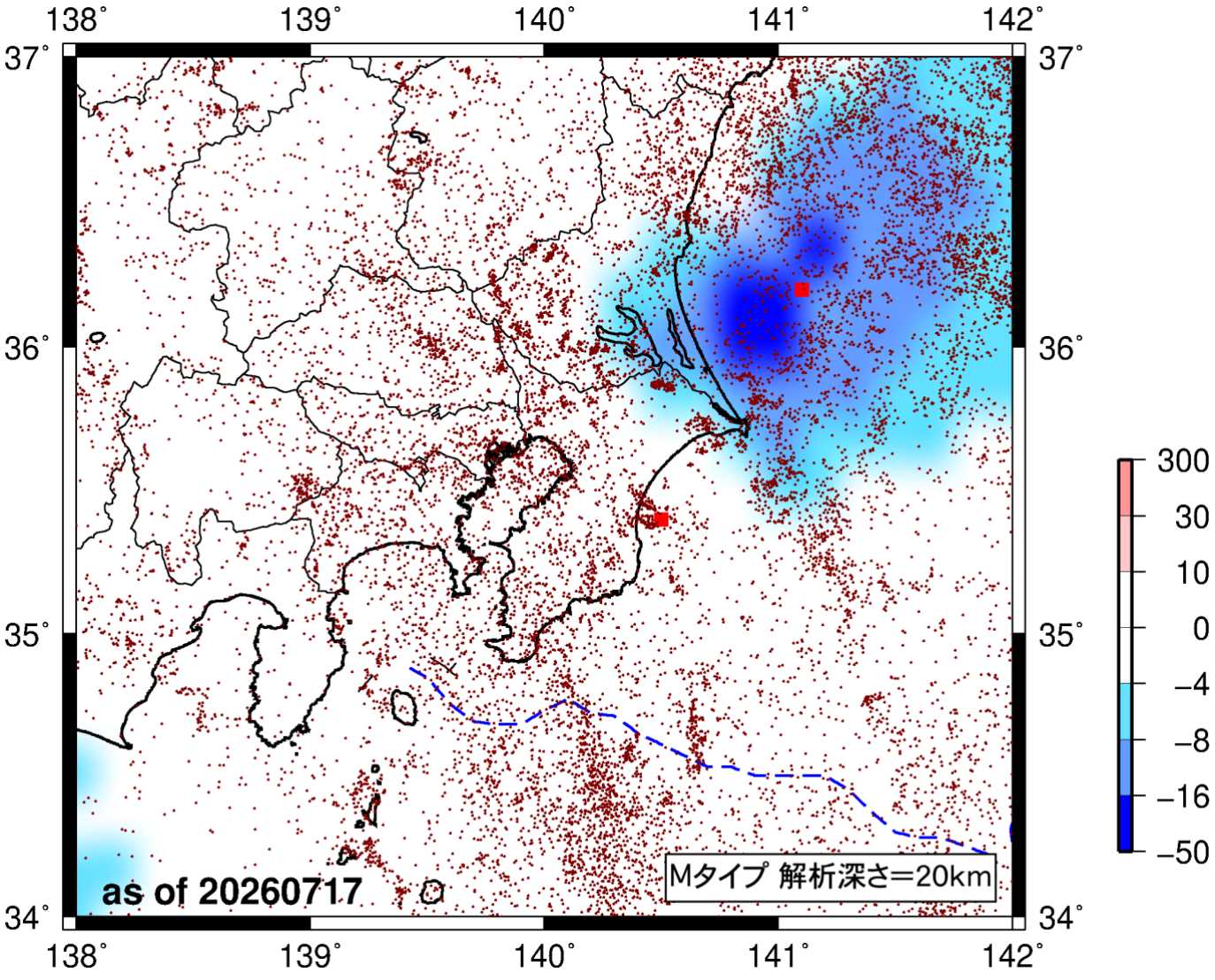
DuMAが提供する情報については、万全の注意を払って掲載していますが、その開発中のアルゴリズムから計算される情報に対しては完全性・正確性・最新性・有用性などを保証するものではありません。ユーザー様に生じたいかなるトラブル・損失・損害に対しても、DuMAは一切責任を問わないものとします。 提供する情報の利用に関しては、ユーザー様ご自身の責任において行っていただきますようお願いいたします。 DuMAニュースレターで提供いたします「地下天気図®による地震情報」の無断転送・転載・2次利用はご遠慮ください。 ご利用は原則としてご契約様ご本人とそのご家族の方への情報共有までとさせていただきます。(個人会員) — 記事の無断転用は禁止します。— 本掲載記事の著作権はDuMA Inc.が保有しております。© 2016 DuMA Inc. All Rights Reserved. 地下天気図®は DuMAが独占ライセンスを受けている登録商標です。

1985 年 9 月 19 日のメキシコ地震（Mw8.0）は、震源が太平洋岸で、メキシコシティーから約 350km 離れていたにもかかわらず市内で甚大な被害を生じました。最大の理由は、同市がかつての湖を埋め立てた軟弱な堆積層の上にあり、遠方から到来した周期約 2 秒前後の地震波が盆地内で著しく増幅され、長時間揺れ続けたためです。その結果、固有周期が近い中高層建物に共振が起こり、多数の建物が倒壊しました。長周期地震動というものが高層建築に特に大きな影響を与える事が初めて示された地震でもありました。

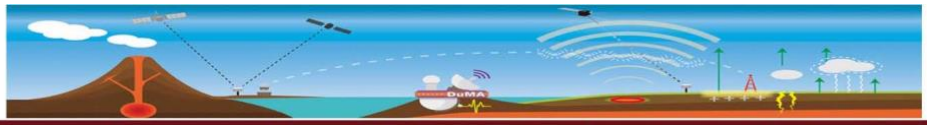
この地震は、震源から都市まで距離があれば、強い揺れが到達する前に警報を出せることを強く認識させました。メキシコではその後、太平洋岸の地震を検知して首都へ警報するシステムが整備されました。日本の緊急地震速報は、鉄道用の早期警報技術や気象庁の観測網を基礎に独自に発展したものですが、1985 年の被害は、遠隔地地震に対する早期警報の重要性を世界的に示した代表的事例といえるのです。

首都圏の地下天気図®

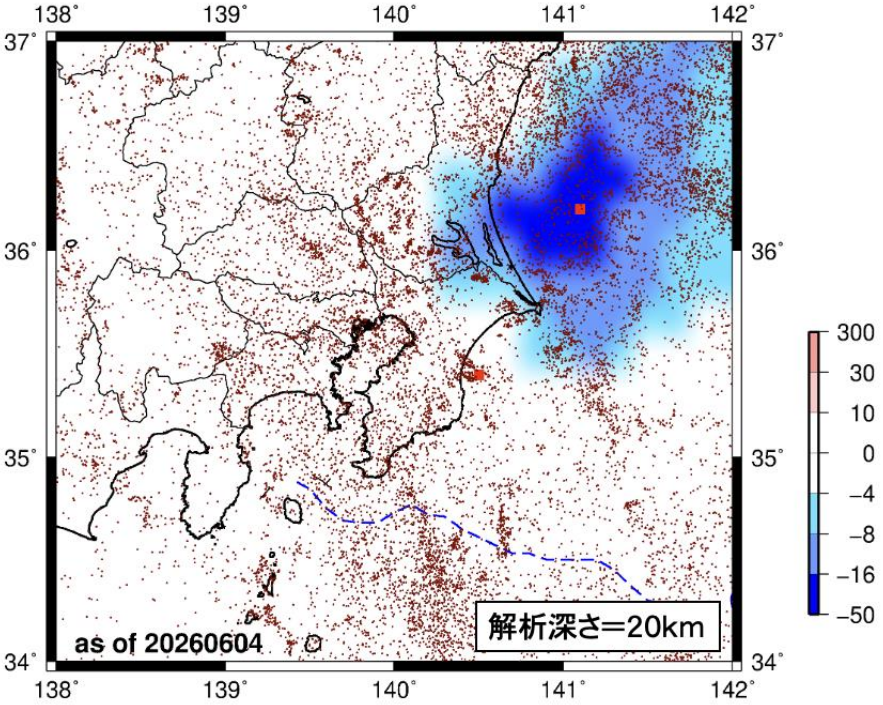
2026年6月８日のニュースレターに続き、首都圏の地下天気図です。次にお示しする図は7月17日時点の M タイプ地下天気図で、解析の深さを地下20kmとしています。



DuMAが提供する情報については、万全の注意を払って掲載していますが、その開発中のアルゴリズムから計算される情報に対しては完全性・正確性・最新性・有用性などを保証するものではありません。ユーザー様に生じたいかなるトラブル・損失・損害に対しても、DuMAは一切責任を問わないものとします。 提供する情報の利用に関しては、ユーザー様ご自身の責任において行っていただきますようお願いいたします。 DuMAニュースレターで提供いたします「地下天気図®による地震情報」の無断転送・転載・2次利用はご遠慮ください。 ご利用は原則としてご契約様ご本人とそのご家族の方への情報共有までとさせていただきます。（個人会員） — 記事の無断転用は禁止します。— 本掲載記事の著作権はDuMA Inc.が保有しております。© 2016 DuMA Inc. All Rights Reserved. 地下天気図®は DuMAが独占ライセンスを受けている登録商標です。



前回の6月の地下天気図と対極的には状況は変わっておりません。参考までに以下に6月８日のニュースレターの地下天気図を再掲します。



６月の地下天気図と比較しますと、茨城県沖を中心とした地震活動静穏化領域は、領域の大きさはほとんど変化していませんが、濃い青色の部分が若干小さくなっているようです。

これは過去の経験則が正しいのであれば、DuMA としては茨城県およびその沖合、千葉県およびその沖合での地震発生の可能性はもうしばらく先であると考えています。これは経験則では、静穏化が解消してから該当する地震が発生する事が多いためです。

また。地震は静穏化の中心で発生する事もありますが、7割ほどは静穏化の周辺部で発生しています。すなわち現在の静穏化は茨城県沖の海域が中心となっていますが、茨城県や千葉県北部の陸域で発生する可能性も存在する事を知って頂ければと思います。

DuMAが提供する情報については、万全の注意を払って掲載していますが、その開発中のアルゴリズムから計算される情報に対しては完全性・正確性・最新性・有用性などを保証するものではありません。ユーザー様に生じたいかなるトラブル・損失・損害に対しても、DuMAは一切責任を問わないものとします。 提供する情報の利用に関しては、ユーザー様ご自身の責任において行っていただきますようお願いいたします。 DuMAニュースレターで提供いたします「地下天気図®による地震情報」の無断転送・転載・2次利用はご遠慮ください。 ご利用は原則としてご契約様ご本人とそのご家族の方への情報共有までとさせていただきます。(個人会員) — 記事の無断転用は禁止します。— 本掲載記事の著作権は**DuMA** Inc.が保有しております。© 2016 DuMA Inc. All Rights Reserved. 地下天気図®は **DuMA**が独占ライセンスを受けている登録商標です。